

## 心理学研究科 心理学専攻

### ●入学者受入れ方針（アドミッションポリシー）

〔学ぶ内容および特色〕

心理学研究科心理学専攻は、高度な科学的心理学に基づく研究能力を備え、社会が心理学に求めるさまざまなニーズに応えられる応用力を持った専門家の養成を目標としています。具体的には、以下のような学生の入学を期待します。

〔入学を期待する学生像〕

1. 心理学研究の基礎的知識と技能を有し、現代社会の抱える諸問題に対して心理学的視点から問題意識と課題を設定できる人。
2. 社会の要請に応えようとする使命感とともに豊かな人間性と柔軟な心を持ち、誠実かつ謙虚に研究に向き合える人。
3. 独創的研究に取り組む意欲とひたむきな探究心そして倫理観を兼ね備え、研究の過程で直面する困難に耐え得る情熱を有する人。
4. 外国語論文を理解し、国際的視野を持って研究を展開しようとする人。

### ●教育課程編成・実施方針（カリキュラムポリシー）

心理学研究科心理学専攻は、高度な学問的水準に達する自立した心理学研究者の養成という教育目標を実現するために次のようなカリキュラムを編成し、教育を行っています。

1. 「特殊研究科目」「演習科目」を設置し、特殊研究科目では、より高度な専門知識を得るための講義により研究の深化を行い、演習科目では博士論文の作成を目指した指導を行い、これらを通して、本学の学習に必要な自立した研究者としての高度な研究能力と識見の修得を可能にする。
2. 「特殊研究科目」では、発達心理学・学校心理学・臨床心理学に関するテーマを発展させ、人間のこころのメカニズムとその応用的な対人援助技術について、より高度に科学的に考究していく。
3. 「演習科目」では、1年次のはじめに主・副指導教員を決め、3年間の博士論文作成に至る過程を一貫した指導体制で行う。1年次には、研究テーマに沿った文献発表を繰り返し、討論を重ねることにより、研究計画の立案へと導く。2年次には、研究計画に沿ってデータの収集と整理をおこない、さらに演習での発表・討論により研究の深化と発展を図り、学術雑誌への2編以上の論文投稿を行い、第一次審査に備える。第一次審査に合格すれば、3年次には、博士論文作成に取りかかり、必要に応じて追加のデータ収集を行い、年度末の本審査および最終試験に備える。

## ●学位授与方針（ディプロマポリシー）

心理学研究科心理学専攻は、心理学に関する高度な知識を有し、社会に貢献できる自立的な研究者の育成という教育目標を達成し、以下の能力を身につけた学生に学位を授与します。

1. 心理学およびその周辺領域に関する高度な知識と学問体系を深く理解し、科学的心理学に基づく研究能力を備えている。
2. 現代社会が直面するところの問題を理解し、自らの研究について、広い視野に立った適切な課題を設定し、それを可能にする研究計画を策定する能力を身につけている。
3. 研究成果を国際会議等で論議し、学術論文としてまとめ、公表する能力を身につけている。
4. 専門分野における知識や成果を教授し、また心理学的専門性を生かして社会のリーダーとして活躍できる資質と能力が培われている。